



JVO だより (Vol.5) 2026 年版

NPO 法人 日本食品安全検証機構 (JVO)

URL <http://www.haccp-jvo.com>

〒103-0027
東京都中央区日本橋3丁目2-19
新槇町ビル別館第一 2F

目次

1. 理事長ご挨拶	3
2. この1年の活動を振り返って	5
1) e-learning 事業（農林水産省「農場指導員養成事業」）	
2) 鶏卵 GP センター向けオンラインワークショップ	
3) 鶏卵 GP センター向け HACCP 認証審査	
4) 学会活動	
3. 将来に向けて	6

1. 理事長ご挨拶

畜産物の食の安全を未来につなぐ – 真価と深化 –

1. 2025 年を振り返って

皆様には、平素より当 NPO 法人の活動に対して格別のご高配をいただき、厚く御礼申し上げます。2026 年版の JVO だよりの発行に伴い、一言ご挨拶を申し上げます。

振り返れば、昨年 2025 年は当法人にとって、まさに激動の一年でした。

長年、私たちを力強く牽引してくださった前理事長、茶藪明先生が昨年 3 月に突然ご逝去されるという、あまりに大きな喪失に、誰もが深い悲しみと戸惑いの中にありました。混乱のさなかで行われた組織の再整備、私自身、理事長に選任され、慣れない運営体制への移行など、多くの苦労が重なりましたが、関係者の懸命な支えにより、今日この日を迎えることができいております。

2. 前理事長の遺志と、私たちの使命

今回、関係者の皆様の想いを一冊にまとめた「哀悼集」の作成を通じ、私たちは改めて、前理事長が築き上げてきた功績の大きさと、当法人が社会に果たすべき使命の重さを再確認することができました。この場をお借りして、これまでご支援いただいた皆様のご尽力に心より敬意と感謝を申し上げます。

前理事長が、常日頃、口にしていたのは、「世界に通用する我が国の HACCP」、「農場から食卓まで、一貫した衛生管理の確保、ワンパッケージ HACCP」でした。

2025 年の悲しみを乗り越え、私たちはその遺志を単なる「思い出」とするのではなく、具体的な「行動」へと変えていかなければならないと感じています。

3. 2026 年の基本方針

2025 年を振り返ると、茶藪先生のご逝去もさることながら、国内外の情勢では、トランプ関税、我が国憲政史上初の女性首相である高市政権の誕生、記録的な円安と株価の高騰など激動の 1 年でした。

畜産物、食の安全に目を向けると、厚生労働省は、HACCP 制度化から 5 年が経過し、改正食品衛生法の施行状況を踏まえた課題について、調査を開始しました。農場段階では、畜種を問わず、家畜伝染病の発生リスクは、なお一層高まっており、飼養衛生管理基準、一般衛生管理プログラムの重要性は高まる一方です。

このような中、2026 年は、農場および食品工場は、いずれも、『HACCP の“真”の実行性』が問われる年であると考えます。

私たち、NPO 法人は、本年度は、『畜産物の食の安全を未来につなぐ – 真価と深化 –』をスローガンに、以下の 3 つの柱を軸に活動を展開いたします。

① HACCP の“真”の実行 – 運用の効果的な支援・教育システムの体系化を図る

・ワンパッケージ HACCP セミナーの開催 / シリーズ化 (2~3 シリーズ)

開催目標 – 2026 年 6 – 7 月 (案)

・HACCP 制度化から 5 年 ~ HACCP の更なる実行に向けて ~

・GP センター HACCP 手引書による衛生管理計画の策定とその運用

・e-learning、ワークショップ (オンライン) の開催

② 畜産物の食の安全に関する調査・研究の促進

前理事長が重視した「現場」と「科学的根拠」を継承する形で、畜産物の食の安全に関する調査・研究協力を促進してまいります。

重点課題: 鶏肉のサルモネラ・カンピロバクターの低減、輸出競争力の増進

③ 継続事業

農林水産省事業 農場 HACCP 指導員養成事業 / 日本卵業協会 GP-HACCP 審査事業

4. おわりに

私たちは昨年、大きな悲しみを経験しましたが、それゆえに得られた新たな気づきもありました。2026 年、私たちは前理事長の想いを胸に、新しい時代の「食品安全」を切り拓いていく覚悟です。不慣れな点も多々あるかとは存じますが、皆様と共に、一歩ずつ着実に歩みを進めてまいりたいと思います。

本年度も変わらぬご支援とご協力を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

令和 8 年 (2026 年) 4 月吉日

NPO 法人 日本食品安全検証機構 (JVO)

理事長 古谷 陽子

2. この1年の活動を振り返って

1) e-learning 事業（農林水産省「農場指導員養成事業」）

当 NPO 法人では、農林水産省からの補助を受けて、農場指導者向けにインターネット・ログイン方式による e-learning を実施しております。事業の目的は、実践的 HACCP の習得と現場をけん引できる人材の育成です。

昨年度は、共通講座では受講者 67 名（内修了者 57 名、完遂率 85.1%）、畜種別講座（採卵鶏、肉養鶏、豚、乳牛、肉牛）では、受講者 26 名（内修了者 23 名、完遂率 88.5%）でした。平成 26 年度以降現在までの延べ受講者数は 1,300 名を超えております。

2) 鶏卵 GP センター向けオンラインワークショップの実施

当 NPO 法人では、鶏卵 GP センター（独立 G 施設、独立 P 施設を含む）を対象として、国際標準である HACCP システムの基礎と GP センター-HACCP 認証基準を学ぶ e-learning 基礎講座を開設しております。令和 3 年の開設以来 5 年間で 36 社から 87 名が受講されています。昨年度の実績は以下の通りでした。

実施期間：2025 年 3 月 1 日～3 月 31 日

受講者数：17 名

実施方法：オンライン方式

3) 鶏卵 GP センター向け HACCP 認証審査

当 NPO 法人は、一般社団法人 日本卵業協会の委託審査機関として、鶏卵 GP センターに特化した HACCP の施設認証を行っております。現在、HACCP の専門知識と資格を備えた 3 名の審査員が全国各地で実地審査を担当しております。本認証制度の本格実施から早くも 13 年目を迎え、4 年ごとの審査の更新を迎える施設も次々に増えております。昨年 12 月末時点で、認証を受けた施設は大手を中心に合計 44 施設となり、これは我が国の GP 施設数全体の 10%以上、鶏卵処理個数では全体の約 17%に上るものと推定しております。

4) 学会活動

昨年度、当 NPO 法人が関与した学会活動、学術誌への記事投稿は以下のものがありました。

『ブロイラーの盲腸内容物および鶏肉におけるカンピロバクター菌数の関連性』

古谷陽子¹、鈴木正太郎²、相川知広²、岡村雅史²、佐々木瑞希²、佐々木貴正²

1 NPO 法人 日本食品安全検証機構, 2 国立大学法人 北海道国立大学機構
帯広畜産大学

食品衛生学雑誌 66 (4) 61-68, 2025.

『日本ブロイラー群におけるサルモネラ属の表現型の変化』

百瀬義香¹、佐々木義正²、米光健三³、黒田誠³、池田哲也⁴、上馬正志¹、古谷陽子⁵、豊福一⁶、伊見静信⁷、浅井哲夫⁸

1 国立衛生科学研究所, 2 国立保健科学研究所, 3 国立感染症研究所, 4 北海道公衆衛生研究所, 5 NPO 法人日本食品安全検証機構, 6 山口大学獣医学大学院, 7 東京農業大学, 8 岐阜大学大学院

食品の安全性 12 (2)25-33,2024

『採卵養鶏場における農場 HACCP 導入後の鶏卵の安全性と生産性』

赤池洋¹、長井誠²、森田幸雄²

1, 森久保薬品株式会社, 2 麻布大学大学院

鶏病研究会報 61(3)116-122,2025

3. 将来に向けて

今回、私たちはこの遺志をさらに高いレベルで実践に移すため、大きな一歩を踏み出しました。本年1月より、内閣府食品安全委員会の前委員長である山本茂貴先生を当 NPO 法人の最高顧問にお迎えし、多大なるご協力をいただけることとなりました。山本先生は、前理事長とかねてより深い親交があり、当法人の理念も内容も深く理解されておられます。

長年、我が国の食品安全行政のトップを務められていた山本先生の専門的な知見と、私たちがこれまで現場で培ってきた実践力を融合させることは、当法人にとってこれ以上ない「心強い追い風」となります。前理事長が築いた基盤の上に、新たな柱を立てることで、私たちの活動はより盤石なものになるものと確信しております。

今後とも、皆様からの熱いご支援を受けながら、各種事業を展開してまいりますので、当 NPO 法人に対して、引き続きご支援のほど、よろしくお願い申し上げます。

以上